

ソフトバレーボールの基礎(プロトコール)

(これだけは知っておかないと試合には臨めません)

1. 試合開始前、チーム・キャプテンは審判に呼ばれます

相手チームのチーム・キャプテンとトス(ジャンケン)をして、勝った方が試合開始時のサービス権またはコートを選択ができます(通常はこの結果を踏まえ、スターティング・ライン・アップ・シート(目玉)を作成します)

2. 試合開始前、相手チームと3分間の合同練習をします(短い時もあります)

この練習はボールに慣れる、身体を温めるのが目的ですので、なるべく軟らかいボールを出しましょう。
この時間帯に、監督もしくはチーム・キャプテンは目玉を副審に提出します。

3. 試合開始前の挨拶を交わします

チームの全員がエンド・ラインに並びます。この時、チーム・キャプテンは右端に位置します。
主審の吹笛でネットの方に進み、相手チームの選手と握手を交わします。

4. 主審の吹笛でスターティング・メンバーはコート内に入ります

この時、競技者は、予め決められたポジション(目玉に記入されている背番号どおり)に入ります。
チーム・キャプテンは試合中、コートにいる間はゲーム・キャプテンとして権利を行使するとともに、その義務を負います。
チーム・キャプテンが交替してコートの外に出る時は、コート内の競技者から代理の人を指名します。この人を臨時のゲーム・キャプテンと言います。

何故かと言いますと、<ゲーム(チーム)・キャプテンに与えられている権利がなくなるからです>
その権利とは

1. 競技者交代及びタイムアウトの要求ができる
2. 審判のジャッジに対して質問ができる

5. 試合開始です

サーブ権を選択したチームがサービスをします、後衛の右端にいる競技者がその役割です。
アタック・ヒットが成功する、または、相手チームが反則等を犯したりすればラリーに勝ち、1点を得ます。
ラリーに勝てばその競技者が引き続きサービスを行います。
ラリーに負けるとサーブ権は相手チームに移行します。相手チームは時計回りにローテーションし、後衛の右端に来た競技者がサービスをします。以降は、これの繰り返しです。

6. 試合中に作戦タイムを要求できます

各セット2回要求できます。30秒/回です。この時、競技者全員はコートの外に出ます。

7. 試合中に競技者の交代ができます

各セットで4回(4人)の交代ができます。
スタメンの競技者と控えの競技者が交代しました。もう一度その競技者同士で交代することは可能です。
しかし、コートに復帰した競技者はそのセット内ではもう交代はできません。ベンチに帰った競技者もできません。
この時の競技者交代回数は2回となります。

8. 15点を取ったチームがそのセットの勝者です

14対14の時はデユースとなります。2点差が出るまで続行します。ただし、17点で打ち切りです。

9. セットが終わるとコート・チェンジをします

競技者はエンド・ラインに並び、主審の吹笛で左回りに、支柱の外側を通過し、ベンチに入ります。
休憩は3分間です。その間に、監督もしくはチーム・キャプテンは次のセットの目玉を作成し副審に提出します。2分30秒で副審の吹笛があり、スタメンはコートに入ります。(1セット目のスタメンと変わっても問題はありません)
2セット目の開始時のサーバーは1セットでコートを選択したチームの後衛の右端にいる選手からです。

10. 2セット連取したチームがそのゲームの勝者です

11. セット・カウントが1対1になると3セットに入ります

2セット終了時の対応は1セット時と同様ですが、コートの交代はせずベンチに入ります。
その後、改めてチーム・キャプテンがトスし、サーブ権かコートを選択します。
何れかのチームが8点になったところでコートを交代します(エンド・ラインに整列せず、その位置から直接移動します)
(交代の時期を逸した時は気がついた時点でやり、得点はそのままです)

12. 試合終了です

競技者全員が試合開始前と同様にエンド・ラインに整列(並ぶ順番は自由です)し、主審の吹笛でネット方向に進み、相手競技者と握手を交わします。チーム・キャプテンは審判にも挨拶(握手)しましょう。
チーム・キャプテンは試合結果報告書(記載内容を確認)にサインをし、目玉の返却に応じます。